高齢者の中でSNSを多く利用する人の特性

○水野　一成（Kazunari Mizuno）、近藤　勢津子（Setsuko Kondo）
Keywords：高齢者・SNS・孤独感・人との繋がり

１　目的

既存の研究において、高齢者の SNS 利用が社会活動への満足度に対して直接的または間接的に影響を与えることが明らかにされている。しかし、高齢者の SNS 利用に関する特性に特化した研究は少ない。このため、本研究の目的は SNS の利用が多い高齢者の特性を明らかにすることである。なお、本稿で対象とする SNS は、LINE、X、Facebook、Instagram、TikTok とする。

２　方法

本稿に利用した調査は、2025 年 1 月に訪問留置法を用いて全国 65-84 歳（性・年代・地域・都市規模で割付）を対象に実施したものを用いた。分析は数量化理論第 II 類を用いた。目的変数は「SNS 利用頻度（1 群：未利用　2 群：低利用　3 群：高利用）」であり、説明変数は「属性・ライフスタイル・社会活動・QOL に関する 14 項目」とした。低利用と高利用は、各 SNS の利用頻度（受信・送信別）に応じ、点数化したものを用いた。また、SNS の利用は年齢に関する影響が大きい（年齢が若いほど、利用頻度が高い）ため、前期高齢者（65-74 歳）と後期高齢者（75-84 歳）に分けて分析を行った。

３　結果

分析の結果は偏相関係数が高い説明変数をカテゴリースコアから解釈する。両者に共通して、「イノベータ」得点および「情報欲求志向」が高い人が SNS を高頻度で利用する傾向が認められた。また、前期高齢者においては「女性」および「有職者」、後期高齢者においては「高学歴」「孤独感が低い」および「地域活動が活発」な高齢者の SNS 利用頻度が高いことが明らかとなった。また、「健康満足度」及び、「世帯年収」「教室活動への参加」は目的変数との関係が低い。

４　結論

以上により、SNS の利用が多い高齢者の特性はイノベータ傾向が高く、情報欲求志向が高い人であった。今後、高齢者により SNS が普及した場合はイノベータ得点や学歴に関する影響が低くなる可能性がある。また、後期高齢者において、より「孤独感」との関係が強いことから、社会的活動が少なくなった場合においても、SNS の利用により、孤独感の軽減に繋がる可能性が示唆された。

【主要参考文献】

福定正城・斉藤雅茂・近藤克則・斎藤民（2022）対面・非対面交流のタイプ別にみた高齢者の主観的健康：JAGES2019 横断研究『第 69 巻第 12 号「厚生の指標」』, 1-9

橋本成仁・山下壮太・海野遥香(2021) コミュニケーションと高齢者の生きがいの関連性に関する研究－SNS 利用に着目して－『土木学会論文集 D3（土木計画学), Vol.76, No.5（土木計画学研究・論文集第 38 巻)』, 209-220

山下壮太・橋本成仁・海野遥香（2023）高齢者のコミュニケーションと余暇活動の満足度に関する研究－SNS 利用に着目して－『日本福祉のまちづくり学会　福祉のまちづくり研究　第 24 巻』, 59-69

井本千代香ら　(2023)高齢者のスマートフォンの利用頻度と社会的交流人数との関連『山口県立大学学術情報　第 16 号』, 87-93

【報告要旨作成における注意事項】

・A4 判 1 ページ以内におさめること

・上下左右の余白は 20mm

・題目は MS 明朝 14 ポイント、副題目は MS 明朝 12 ポイントで中央寄せ

・氏名は MS 明朝 11 ポイント（共同研究者がいる場合は、当日の発表者の氏名に〇をつけること

・本文は 1,000～1,400 字程度とし、原則として MS 明朝 11 ポイント